

線量目標値

線量目標値 せんりょうもくひょうち

線量目標値は、日本の原子力発電の主流を占めている発電用軽水炉について、ICRP（国際放射線防護委員会）のALARA（合理的に達成可能な低減）の精神にしたがって、放出放射性物質による周辺公衆の被ばく線量を合理的に達成できる限り低く保つための設計及び運転管理の目標として、定められた（原子力安全審査指針）ものである。その値は、実効線量当量で、年間 $50\mu\text{Sv}$ で、一般公衆に対する線量限度の $1/20$ で、地域による自然放射線からの線量当量の変動の中より小さい。実効線量当量は、気体廃棄物中の希ガスによる外部被ばく、ヨウ素の摂取による内部被ばく、液体廃棄物に起因する海産物摂取による内部被ばくの合計で評価する。

<登録年月>

1998年01月
